

ニュース
カードと福祉作業所の
お菓子をお届け
いわて生協

いわて生協ではクリスマスやひなまつり、七夕といった季節のイベントごとに、被災された沿岸部の組合員へ手作りのカードをお届けする取り組みを2011年のクリスマスより継続的にこなしています。

カードは、いわて生協組合員や全国の生協から送られてきたもので、この2月にはひなまつりのカードを宅配の職員が届けました。



ひなまつりカードとお菓子のセット作業を行なったボランティアとコープ・ボランティアセンター(CVC)スタッフ。

また、カードにはお菓子も一緒に添えられました。お菓子作りを担当するのは、岩手県内の福祉施設作業所5カ所です。宮古市内では「SELPわかたけ」と、「ワークハウスアトリエSun」が製造を担当しました。この2

施設は、宮古市圏域の福祉施設作業所など16団体で構成される「いきいきフェア実行委員会」のメンバーです。一つひとつの施設は小規模ですが、力を合わせてさまざまなニーズに対応し、販売会やイベントなどネットワークを生かした活動を行っています。

地元の団体との連携も深めながら、いわて生協の復興に向けた活動は日々行なわれています。



お菓子を作る「SELPわかたけ」のスタッフ。

ニュース
被災地の視察に
多くの生協が
訪れています



福島県への視察に参加したコープぐんまの組合員からは、「福島県の農産物を買って復興を応援したい」などの声が出された。

全国の生協は、被災地への視察を行ない、現状を知って、今後の取り組みについて考える機会をつくっています。

3月の下旬にも、25日〜27日にコープおおい、26日にコープぐんまが福島県を、25日〜27日にならコープが宮城県、岩手県を視察しました。これらの視察では、現地の生協が企画運営に協力しているところもあります。

参加者たちは、震災の爪痕が残る



みやぎ生協ボランティアセンターのスタッフ(左)に質問をする、ならコープ理事。

場所を自分の目で確かめたり、仮設住宅の住民や手芸品などを作る団体との交流などを行ないました。

ならコープの中野素子なかの もとこ副理事長は、「理事には帰った後、視察で学んだことを伝え、組合員と一緒に考えていく役目があります」と話します。ならコープからの参加者たちは、現地の生協のボランティアスタッフたちに、被災地の現状などについて質問をし、メモをとっていました。

他にも、年間を通して、全国の生協が視察を行っています。各生協が、それぞれできることを探し続けていきます。